

1. 財団設立の経緯と組織の変遷

(1) 財団設立の経緯(1967年)

財団設立の経緯

昭和22年(1947年)、戦後の混乱期に創立された協栄生命は昭和42年(1967年)5月に創立20周年をむかえたが、その記念事業の1つとして財団法人東南アジア生命保険振興センターを設立し、事務所を東京日本橋の協栄生命本社ビル6階に置いた。



当時、再保険業務を通じて特に関心を持っていた標準下体生命保険契約普及のための基礎研究助成、およびアジア諸国等における生命保険事業の積極的援助・指導については、すでに協栄生命独自でおこなわれてきた。(生命保険の研修生受け入れは昭和38年(1963年)から始められたが、当初は主に沖縄および日本語の話せる韓国、台湾からの研修生を受け入れていた。)それらの活動は、わが国生命保険事業への公共的要請であり、その本来の公共性と重要性か

ら独立の組織により有効かつ永続的に実施されるべきものとして、財団を設立して吸収されることとなった。

協栄生命は、昭和42年(1967年)5月30日の第20期定時株主総会において、その剰余金から2,000万円を財団設立のため寄付を行うことを決議した。その後、大蔵省当局と財団法人設立につき折衝を行い、7月20日正式に財団法人東南アジア生命保険振興センター設立認可申請書を大蔵大臣に提出、8月21日大蔵大臣の許可を得た次第である。

初代役員

当財団の初代役員は次の通りである。

理事長	川井 三郎	(協栄生命社長)
理事	藤川 博	(朝日生命相談役)
理事	中島 信悟	(日生住宅社長)
理事	西原 直廉	(第一火災社長)
理事	小松 正鎚	(田口証券社長)
監事	氣賀 真一郎	(千代田生命相談役)
監事	中村 清代嗣	(協栄生命専務取締役)

また、9月1日開催の理事会において次の8名を評議員に選出し、それぞれ就任の承諾を得た。

金子 美雄	(水資源開発公団理事)
川崎 祐宣	(財団法人川崎病院理事長、院長)



初代理事長 川井三郎氏

末高 信	(早稲田大学名誉教授)
園 乾治	(慶應大学教授)
浜田 成達	(朝日生命副社長)
松井 直行	(日本不動産銀行常務取締役)
山内 正憲	(三井生命専務取締役、日本アクチュアリー会会長)
吉田 忠	(明治生命医務部長、日本保険医学会会長)

事業内容

当財団の目的達成のための事業については、寄付行為の第4条に次の通り規定された。

1. 標準下体生命保険に関する調査研究およびその助成
2. 東南アジア諸国ならびに中華民国、大韓民国、ブラジル等からの保険関係海外留学生の引受け、研修および指導
3. 東南アジア諸国ならびに中華民国、大韓民国、ブラジル等の保険会社に対する現地指導
4. その他理事会が必要と認めた事業